

教材名：1年生「おはなしをかこう」

①学習課題

つけたい力：そうそうしておはなしをかく力をつけます。  
そのために：おはなしにでてくるじんぶつのせつていをかながえます。  
言語活動：「おはなしかい」をひらいてみんなにしょうかいしよう！

②評価規準

知識・技能：へ・をの使い方、句読点の打ち方、「」を文章の中でつかおうとしている。(1)ウ  
思考・判断・表現：「読むこと」において、経験や想像したことから書くことをみつけ、必要な事柄を集めたり、確かめたりして伝えたいことを明確にしようとしている。(C・ア)  
主体的に学習に取り組む態度：進んで友だちに質問したり、登場人物をどのように設定するのか考え、学習課題に沿って粘り強く書こうとしている。

①教材と出会う（構造と内容の把握 精査・解釈）

【発問①】先生と読んだ「花さかじいさん」のおもしろかったり、ふしぎだったりしたところは？  
・シロ（犬）はおじいさんおばあさんのことが大好きだから、ここほれワンワンって言ったと思う。  
・わるいじいさまはひどい。やさしいじいさまはどうなったのかな。  
【発問②】いままでのお話はどんなひとや動物がでてきましたか？  
・サラダでげんき、りっちゃんが出てきた。お母さんのためにサラダを作った。やさしい子。  
・おとうとねずみチロ。おばあちゃんに大きな声で、ぼくのもあんで！と言ったらちゃんととどいた。勇気のある子。元気な子。  
【発問③】「お話にでてくる人物を考えよう。じんぶつのとくい、できる、すきなことも考えよう。  
・たこたろう：海で生まれた。およぎがにがて。ほかのさかなを食べない。うごきがはやい。おにとたたかう。  
・つばめひめ：つばめの中のプリンセス。ドレスが好き。大きなお城の上にすんでいる。みんなを守る。  
・ひつじのメープル：きょうだい100ぴきいる。みんななかよし。あるひ38ばんめのきょうがいがさんぼちゅうまいごになる。みんなでさがす。みつかった。

②考えを深める（考えの形成 共有）

【発問①】おはなしを書きます。どんなじんぶつか「メモ」をみながら書きます。書いたものがたりを読んでもらってアドバイスをもらおう。  
・たこたろうはやさしいけど、カもちにしたい。空を飛べたらいいなと。でも海でうまれたのに空をとぶのはちょっと合わないかな。  
・おじいさんとおばあさんがさいしょしか出てきてないからなんかおかしい気がする。  
・つばめひめは、ドレスをきていたら飛べないからドレスじゃなくて服がないほうがいいと思う。  
【発問②】できたお話を友だちと読みあいます。いいな、おもしろいな、びっくりした、ふしぎだなともうところを相手に伝えましょう。  
・さいごのところわたしの話とにている。 ・魚だけど、およげないのがおもしろいな。魚がはしるのはおもしろいな。 ・このお話の続きを〇〇さんといっしょに考えたい。

③言語活動（音読劇） ○成果と●課題

○この単元に入るまえから廊下にむかしはなしを30冊以上おいて自由に読める環境を設定した。  
○物語を創作する際、全員同じリード文（桃太郎の冒頭）をあらかじめ用意しておく。  
○書く過程の中で数回、班の友だちに見てもらう時間を設定した。クラス全体に読んでもらうためのアドバイスをしてもらった。  
●3年生以降の「人物像」についてつながることを意識していく必要がある。

④子どもたちのふりかえりより

・もっと書きたい。(裏面はリード文なし) はじめから書けた。こんどはちがう主人公をつくる。  
・とくいなことをたくさん書いたけど、にがてなこともかいたらおもしろいなと思いました。  
・わたしとにいていないじんぶつを書きました。こんどはわたしとにいてる子のことをかきます。きょうだいをふやします。



単元計画  
はこちら